

I テーマ設定の理由

昭和63年4月24日から10月23日にかけて、奈良では県政90周年記念として「なら・シルクロード博」が開催され、注目を浴びている。しかし、裏では飛火野の自然破壊など、様々な問題が隠されたままである。

そこで、僕達は「なら・シルクロード博」を考え直すことにした。

II 研究方法

- (1) 41期生でアンケートをとる。
- (2) シンポジウムへの参加（7月17日、奈良県文化会館）。
- (3) 会場へ（アンケート意識調査）。
- (4) 県庁へ。
- (5) 反対運動について調べる。
- (6) 被害の進行状態を調べる。

III 研究内容

研究のメインテーマ

- ・自然破壊について（樹木・鹿）
- ・反対運動について

研究のサブテーマ

- ・シルクロード博の注目度
- ・アンケート結果から考えられること



— MAIN —

☆樹木について

(予想)

- ・破壊された地域は、会場の範囲とその周り、それに加えて道路の拡張などでも破壊されていると思っていた。

▷刈り取った草や木は全て処分していると考えた。

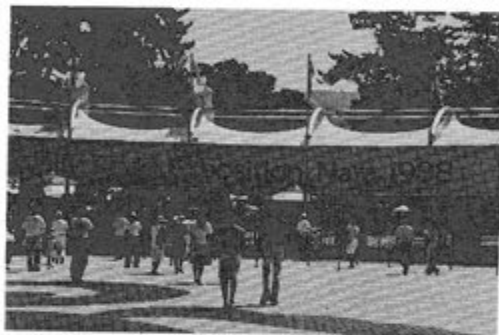
(現状)

- ・会場範囲の自然破壊は、春日野会場は、全てコンクリートで固められている（写真①）。平城京跡会場も同様である。しかし、飛火野会場では、会場が高床式になっていて（写真②）、また登大路会場では、テーマ館の敷地分だけを破壊するなど、色々と工夫がこなされ

ていた。

▷破壊した草や木は、小さいものや枯れたものを除いて、全て天理市の柳本町に移植されている(資料①)。

▷会場づくりのための木材は、吉野の杉が使われている(写真③)。これらの木は、博覧会終了後にも再利用のメドが立っている。

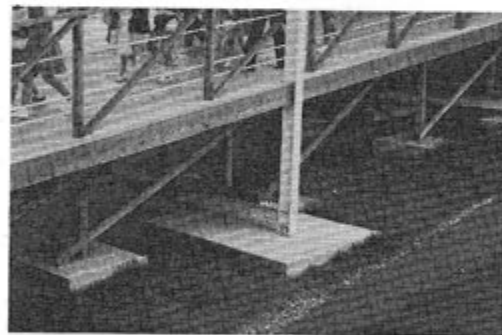


◀写真①

これは春日野会場のメインゲート前である。見ても分かるように、昔、芝生であった場所が、コンクリートに一変している。

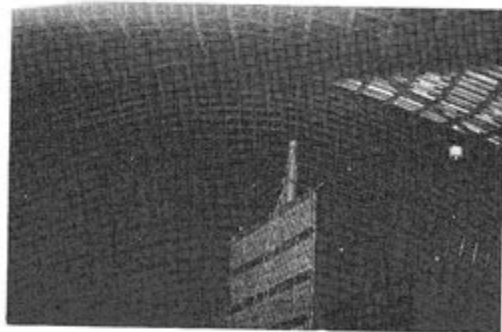
写真②▷

これが、会場建設による自然破壊から芝生を守るために考えられた、高床式会場で、飛火野会場に用いられている。自然保護の面と歴史的な面とがマッチされている。



◀写真③

これは、木造格子シエル構造というもので、登大路会場のテーマ館に使われている。木造格子シエル構造とは、木材を角の格子に組み、最も合理的なアーチを用いて、建物内に柱のない巨大な空間をつくるという構造で、外観は竹かごを伏せたような曲面になる。



○ 樹木移植本数

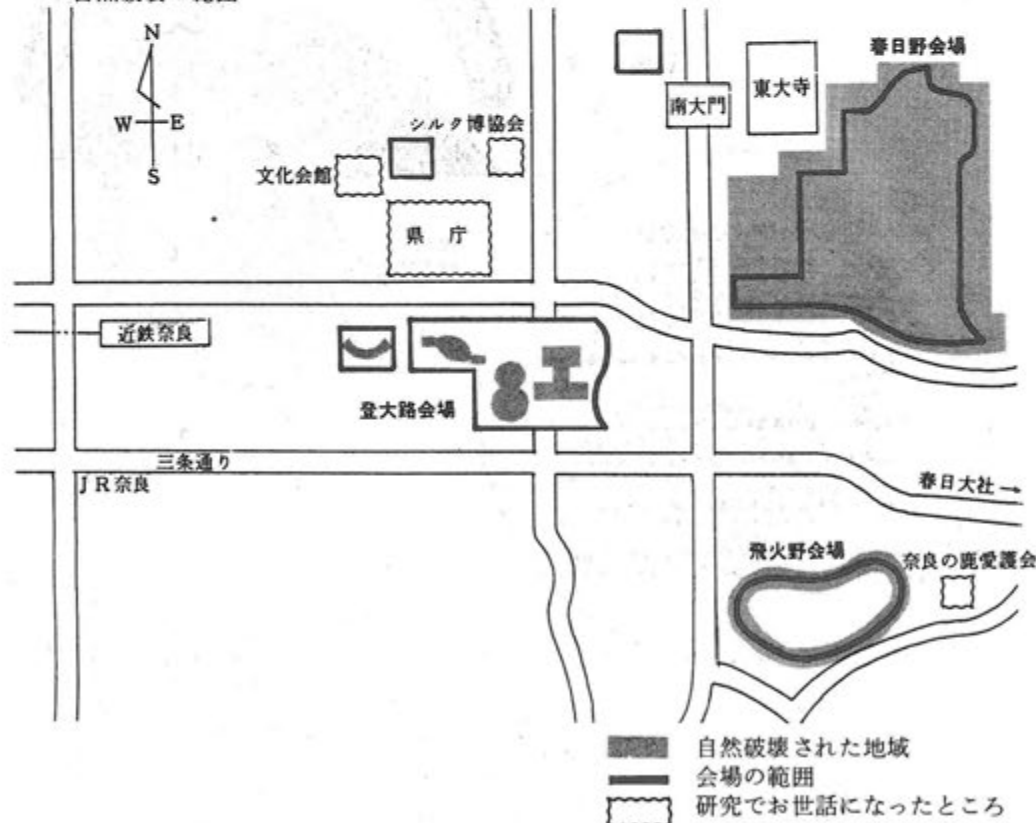
樹木目録 移植 (本)	春日野会場		飛火野会場	登大路会場			植木ヶ原	合計
	植木ヶ原	岸		区内所	テーマ館	郡土館		
3 ~ 15 未満	87	187	4	14 (1)	25 (2)	2	3	322 (3)
15 ~ 30 未満	31	63	0	20 (6)	14 (2)	5	0	133 (8)
30 以上	5	2	4	0	4 (1)	0	0	15 (1)
合計	123	252	8	34 (7)	43 (5)	7	3	470 (12)
	375			U4 (12)				

◀資料①

奈良公園には、平坦部だけで約35000本の立ち木があり、博覧会の会場となった「登大路」「春日野」「飛火野」の各ゾーンについて調査したところ、2469本の立ち木があった。工事に支障が出るため、立ち木を一時、“引越し”させ、博覧会終了後、元の場所に戻すことになった。

上の表を見ると、470本の立ち木を移植したと書かれている。しかし、奈良公園の3つの会場内には、2469本の立ち木があったのだが、そのうちの470本だけだったと言える。残りの木はどうなったのかが疑問である。

▼自然破壊の範囲



☆鹿について

(予 想)

- ・シルクロード博の影響で、鹿の頭数はもとより3分の2には減っていると思っていた。
- ・分布範囲では、1か所に鹿を集めたり、大勢の人を恐れしたりして、大幅に狭まっていると思っていた。
- ・会場敷地内で芝生が刈り取られたために、鹿のえさが減り、それに加えて鹿せんべいを与える観光客も減ったので、鹿苑で鹿にえさを与えていると思った。

(現 状)

- ・愛護会の人によると、今年は鹿の出産数が例年より非常に多く、減るところか、逆に増えているということである。
- ・初めのうちは、人や会場の雰囲気になれて山奥へ潜んでいたが、徐々に出てきているという(資料②)。
- ・奈良公園の芝生は捨てるほどあり、鹿にえさをあげなくても十分にえさはある(資料③)。

資料②

奈良の鹿は国民の文化財産。みんなで大切に保護しましょう。



財団法人 奈良の鹿愛護会

シカからのおねがい

- わたしたちをいじめないで下さい。
いじくられたり、傷をかぶせられて大げがをしたり、蹴りをたたきられたりした仲間がたくさんいます。
- 公園にビニール袋を捨てないで下さい。
食べものにのついたビニール袋を食べて毎年たくさん人の仲間が死んでいます。
- 砂とうや香辛料の入ったお菓子は食べさせないで下さい。
みなさんを引いてあたえられるものは何でも食べてしまいます。わたしたちの仲間になります。
- 公園内での自動車運転には気をつけて下さい。
自動車で行かれる仲間が毎年30頭～50頭もいます。
- 公園内に犬の連れ込みや捨て犬をしないで下さい。
わたしたちは犬は大好きです。犬に仲間が毎年50頭ほどか殺されています。
- 春(5月～6月)はお母さん鹿に注意して下さい。
赤ちゃんを産んだばかりの鹿は子供を守るためにうっかり近よるとたたくことがあります。
- 秋(9月～12月)はお父さん鹿の角に注意して下さい。
角をつけたお父さん鹿は気が荒くなりますので遠ざらないで下さい。

みなさんも
ぼくたちを
いぢめないでね!



奈良公園の鹿対策

区 分	項 目	対 策
鹿が受ける影響	食物源としての芝生が減少する。 (パビリオンなどの敷地及び観客の増進に伴う芝生のふみつけによる芝の死滅)	緑地の確保のため直接会場に利用する以外の芝生群生地等に施肥を行い芝の増進につとめ特に博覧会終了後の冬期における鹿の栄養状態には十分注意する。 なお、念のため非常時、給餌の体制に配慮する。
	パビリオンを囲む柵による鹿の移動の障害	春日野、飛火野各会場毎に設置する外柵は鹿の出入りが自由になる程度の間隔狭さで考慮して設計する。
	観客の混雑による鹿の移動の障害	奈良の鹿は今までに多くの観光客の訪問にもかかわらず、極めて人慣れしている現状からこの可能性は少ないものと考えられるが、十分に注意する。
	鹿の交通事故の増加と人のいたずらによる事故	鹿のパトロールの職員を配置し監視にあたるとともに看板その他の方法で観客の警戒につとめる。
鹿から受ける影響	春の出産時の母鹿からの危害防止等	鹿の愛護会の協力を得て、春の妊娠鹿と秋のオス鹿の鹿苑収容等の防止策を徹底する。
	鹿による危害防止	(1) 鹿のパトロールの強化を図って観客の安全誘導に努める。 (2) 人身事故防止、注意の看板等の設置。 (3) 鹿の飛び出し等による交通事故の防止のため、注意標識の設置。
	農作物の被害防止	必要な箇所に防護柵の設置を検討する。
そ の 他		鹿が、ゴミ(特に、ビニール袋等)を食し、病気になるたり、また、ゴミ箱に首を突っ込み、ゴミを散乱させることを防止するため、今回、設置するゴミ箱は鹿が首を突っ込めないよう工夫したもの(フタのある物等)を計画している。 また、会場内のゴミについては、毎日、閉会後一ヶ所に収集し、委託業者がその日のうちに処理するとともに、昼間も適宜パトロールをしてゴミを収集し、ゴミの散乱防止につとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: small;">西列島については、その事前調査および対策を「シカ生態調査会」代表者：大阪市立大学理学部助教授 川田武男先生に調査委託をお願いするとともに、奈良の鹿愛護会等の関係者と協議な建設をとり、万全を期しております。</div>

資料③

この表を見ても分かるように、鹿を害から守ったり、また鹿からの害を守ったりするため、色々な対策が立てられている。

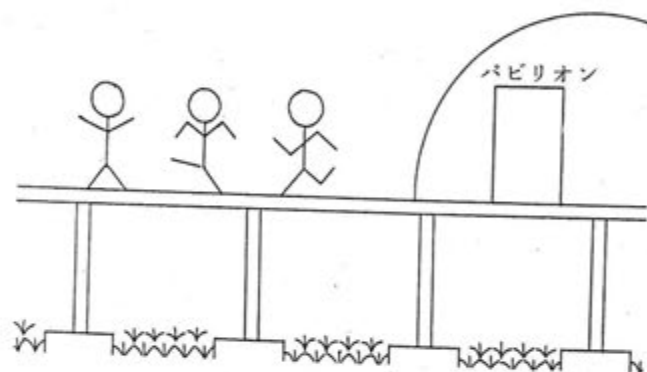
☆反対運動について

(予 想)

- ・シルクロード博は、反対運動の申し入れを一切受け入れず、勝手に開催していると思った。

・しっかりと反対運動の事務所などをつくって、今もなお根強く反対していると思った。
(現状)

- ・シルクロード博開催の方では、県と協会、反対側は県民で裁判も行われ、飛火野の自然を守る方法(資料④)も考えてのシルクロード博開催で、今のところ両者納得という形だということが分かった。
- ・はっきりとした反対運動の中心は見つからなかったが、シルクロード博が終了して、それからの飛火野の状況を見て、まだ強く反対運動を続けていくそうである。



▲資料④
飛火野会場で用いられている、今噂の高床式会場とは、飛火野の自然破壊を防ぎ、かつ飛火野を会場にするという建設方法です。
その仕組みは、会場の廊下やパビリオンを全て地面より上に上げて、実質芝生の破壊は高床式会場を支える柱の面積だけになったのです。

— SUB —

☆シルクロード博の注目度

園宣伝部門

〈鉄道会社(JRと近鉄)〉

- ・入場券つき割引乗車券という形で販売(手段)

TV・ラジオ・電車内の広告・駅構内の広告・切符(資料⑤) etc .
(特別企画)

シルクロード号発車(JR・近鉄)

〈奈良交通〉

- ・シャトルバスの発車(平城京-登大路間無料)
- ・バスの側面を塗って宣伝

〈シルクロード博協会〉

- ・シルクロード博の宣伝(手段)

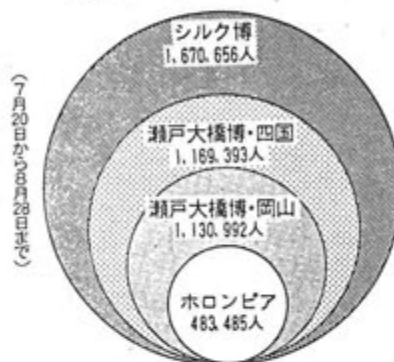
TV・ポスター・デパート等の垂れ幕



▲資料⑤

■結果

夏休み、これだけ人を集めた総決算



(7月20日から8月28日まで)

“花”咲いた地方博

夏休み
雨に泣いたが目標達成

夏休み最後の日曜日、二十一日の西日本はおおむねカラッと晴れ上がり、家族連れや学生グループが行楽地に押し寄せた。湘南大橋博、兵庫県のホロンビア博、奈良市のシルクロード博は思いもかけぬ大雨でその後の天候不順に悩まされただけに、この日の入場にはホックホック。この夏、花と咲いた各「地方博」と、湘南大橋初の夏休みの賑わいは――。

◆ならシルクロード博◆
「なら・シルクロード博」はこの日、開場以来最高の約九万五千人が入場。「ビッグ・パオ」で賑わった武田鉄矢コンサートは、午後一時の開催の一時中止前からの約三千人の客で約四割、広島の米柱に子供が詰めかけた。これで夏休み中の入場者は百六十七万六千五百六十八人、予想入場者数は各々クリアできそう。集入場者数は三十一

日には四万八千人を越え、先を争った。シルクロード博協会の辻政典・宣伝部長は「夏休みに入ってから、中国でもイベントを再開。学生で遊べる博覧会として一般のニーズに合った。七月までは目標を定め下回っていたけど、これで目標をクリアしたと頷ぐことになった。」

▲これは7月20日から8月28日までの入場人数を表したものである。見ても分かるように、入場人数はトップで、8月31日には総入場者数は400万人を突破している。

シルクロード博は終了時まで総人数660万人というのを目標としている。

—— 総入場者数は681万8833人だった。

☆アンケート結果から考えられること

41期生から取ったアンケートのQ10, Q11から取り上げなかった問題を調べてみた。

◇Q10から「起こっている問題を知っていたら」

○交通問題(渋滞・事故)

- ・交通渋滞は、多少はあるかも知れないが、歩行者専用道路があるし、公園内を通ってもよいので心配はない。
- ・交通事故については、奈良へ着くと、どこを見てもガードマンがいるので事故は少ない。

○駐車場の問題

- ・駐車場は、飛火野に作るのをやめて、そのずっと前からあった駐車場を使っている。その場所が遠いのと料金が高いので、あまり利用されていないようだ。

○鹿からの被害(田畑が荒らされる)

- ・シルクロード博が始まってしばらくは、山奥にこもって民家の田畑を荒らしたが、このごろは慣れてふもとへ出てきている。

◇Q11から「起こっていきそうな問題を」

○ゴミ処理問題

- ・奈良公園では、鹿がゴミ(特にビニール)を食べるためにゴミ箱は固めて数か所にしか設

置していない。そのためゴミはたくさん落ちていてそうじはしているものの、持ち帰ってほしい。

○業者の利益が上がらない（県の赤字問題）

・目標人数達成のために、奈良県の小中学生を無料で招待したというのが、大きな傷手となって利益は上がっていないことでしょう。

○古い町のよさがなくなった

・いくらシルクロード博を開催したといっても、奈良の文化財を壊した訳ではない。シルクロード博が終われば、今まで通り美しい奈良に戻るでしょう。

IV 結 論

僕達は、シルクロード博によって行われた自然破壊についての処理が世間に知らされていなかったもので、その真相を暴こうと研究してきました。結果としては、自然破壊の対象となった樹木は移植されていましたが、その数が非常に少なかったので、うなずける処置ではありませんでした。シルクロード博終了後にも、元の美しい奈良公園に戻ることを願いたいと思います。

反対運動の方でも、署名はしたものの、結果がどうなったのか分からない状態だったので、調査したところ、裁判でシルクロード博の方が飛火野の自然破壊の対処として、高床式会場を発案したので、申請を却下されたということが分かりました。

V 総 括

今回の自由研究は、初めての共同研究ということで、何かとうまくいかない点もあったが、分担して研究しなかったにもかかわらず、2人で1つの研究を成功させることができたのでよかったと思う。堀田が考え、松田が書くということを徹底したが、お互いの長所を出しあえて、いいものになったと思う。

僕達のテーマは、シルクロード博についてということで、参考文献なども全くなく、何にも頼ることができず、自分達だけで研究していかなければならなかった。

今回の研究で、色々なことがあった。色々な所へ行って、色々な人と接してみると、会う人みんな、とても優しくかったので嬉しかった。

来年の研究でも、今年の研究で学んだことを生かしていきたいと思う。